

オープンダイアログ

筑波大学医学医療系 斎藤環

Open Dialogue (開かれた対話) とは

- フィンランドの西ラップランド地方で1980年代から実践されている**統合失調症のケア技法/システム/思想**
- ケロプダス病院のファミリー・セラピストたちが中心となる
- **治療チームは危機にあるクライアントの自宅に赴き、危機が解消するまで毎日会いつづける**
- 治療のプロセスにクライアントや家族を巻き込み、臨床家たちは個人ではなくチームで働く
- **入院治療と薬物療法を可能な限り行わない**
- ヨーロッパ最悪の統合失調症治療結果から、初回精神病に関しては世界で最高の統計的結果を出すに至る

いかに導入されたか

- 1980年代、ユッカ・アアルトネンとヤーコ・セイックラにより家族療法の手法が導入される。
- ほぼ同時期にNeed Adapted Treatmentが普及
- 1984年8月27日「クライアントについて、スタッフだけで話すのをやめる」というルールが生まれ、全スタッフがともに考え、患者の意見を聞く方針に
- 80年代終わりに院内での研修システムが導入
- 地域移行の必要性から政府の調査が開始。ケロップダスは薬物療法をできるだけ用いない治療モデルを担当
- 非薬物的なアプローチを追求した結果、治療の原則が整い、病床数が減少した(300→19)

理論的主導者であるJaakko Seikkulaの著書







Keropudas Hospital

アウトカム

西ラップランド地方において統合失調症と診断された
患者群の2年間の予後調査の結果

	ODAP群	伝統的治療群
抗精神病薬の 使用率	35%	100%
精神症状の 残遺率	18%	50%
2年間の再発率	24%	71%
障害者手当の 受給率	23%	57%

Seikkula, J., Olson, M. E. : The OPD approach to acute psychosis : Its poetics and micropolitics. Family Process, 42(3) ; 403-18, 2003.

ODLONG研究 (1992-2015)

Tomi Bergström, Birgitta Alakare, Jukka Aaltonen, Pirjo Mäki, Päivi Kögäs-Saviaro, Jyri J. Taskila & Jaakko Seikkula: The long-term use of psychiatric services within the Open Dialogue treatment system after first-episode psychosis. *Psychosis*, 9:310-321, 2017

対象疾患 (N=65) 研究デザイン: 後ろ向きコホート研究	
統合失調症(42%), 統合失調症様障害(20%), 短期精神病性障害(23%), 特定不能の精神病性障害(15%)	
抗精神病薬の使用	
使用せず	45%
観察期間中に投与あり	55%
2015年の時点で投与中	31%
治療期間、入院の有無	
入院回数が0-1回	54% (0回は24%)
全観察期間での合計治療期間の平均	6±2年間
治療転帰 その他	
治療者と患者の合意で治療が終結	62%
2015年の時点で治療継続中	18%
発症時に抗精神病薬を投与された群は、入院率が高く治療期間も長かった。	

オープンダイアログ理解の三段階

- **サービス供給システム**: 電話を受けて治療チームを結成、24時間対応、毎日ミーティングなど
- **対話の手法**: 重要な決定は本人の目の前で、全員に発言の機会を、発言には必ず反応する、開かれた質問をする、など
- **世界観**: 家族システム理論、ポリフォニー、社会構成主義

オープンダイアローグの7つの原則

原語	定訳	意味
1. immediate help	即時対応	必要に応じてただちに対応する
2. a social networks perspective	社会的ネットワークの視点を持つ	クライアント、家族、つながりのある人々を皆、治療ミーティングに招く
3. flexibility and mobility	柔軟性と機動性	その時々ニーズに合わせて、どこでも、何にでも、柔軟に対応する
4. team's responsibility	チームが責任を持つ	治療チームは必要な支援全体に責任を持って関わる
5. psychological continuity	心理的連続性	クライアントをよく知っている同じ治療チームが、最初からずっと続けて対応する
6. tolerance of uncertainty	不確実性に耐える	答えのない不確かな状況に耐える
7. dialogism	対話主義	対話を続けることを目的とし、多様な声に耳を傾け続ける

オープンダイアローグが注目される理由

- 「対話」で急性精神病が改善・治癒する
- 薬や入院を極力使わない≠反精神医学
- 治療チーム >> 個人精神療法
- 治療者全員がセラピストとして平等
- 透明性と「リフレクティング」
- スタッフミーティングもカンファレンスもない

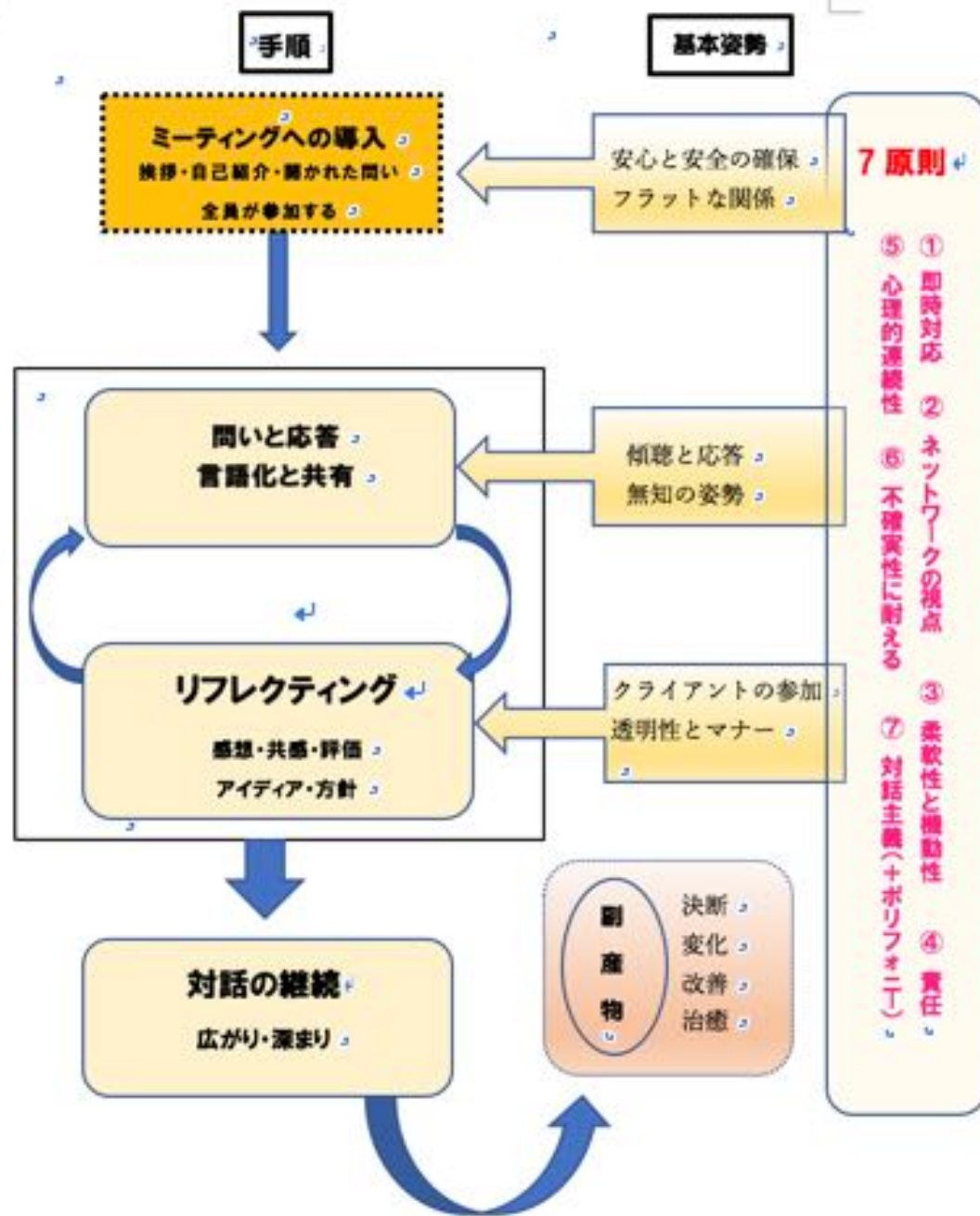
「リフレクティング」の発想

- 評価や意志決定は本人や家族のいる前で行う
- 治療方針について話し合う姿を本人や家族に見てもらう
- 対面・一対一で告げられた場合よりも、決定に参加している意識が確実に高まる
- 当事者はそこでヒントを得た上で自発的に決断できる



実践に当たっての心得

- 対話の目的は「変えること」「治すこと」「(何かを)決定すること」ではない。対話を続け、広げ、深めることを目指す。
- 「議論」「説得」「説明」「アドバイス」は対話のさまたげにしかない。
- クライアントの主観を尊重し、ポリフォニーを大切にす。さまざまな意見が共存するイメージで、ハーモニーとは異なる。



オープンダイアローグの基本プロセス

社交ネットワークのポリフォニー

- ポリフォニーはモノフォニーでもなく、ハーモニーやシンフォニーでもない
- 対話は、妥協や調和をめざした「すり合わせ」ではない
- あなたとわたしの世界はどれほど違っているかを掘り下げていくこと
- その先にあるのがポリフォニックな関係性の世界

参考文献

- ODNJPガイドライン作成委員会編著:オープンダイアログ 対話実践のガイドライン 2018年版. 精神看護,21(2),2018.
<https://www.opendialogue.jp/対話実践のガイドライン/>
- Olson,M.E., Seikkula, J.,Ziedonis, D. : THE KEY ELEMENTS OF DIALOGIC PRACTICE IN OPEN DIALOGUE: FIDELITY CRITERIA.Version 1.1, 2014.<http://umassmed.edu/psychiatry/globalinitiatives/opendialogue/>
- 斎藤環:オープンダイアログとは何か.医学書院,東京,2015.
- 斎藤環,森川すいめい,西村 秋生:オープンダイアログ(開かれた対話)による統合失調症への治療的アプローチ.精神科治療学 32:689-696, 2017.
- Seikkula, J., Olson,M.E.Olson, Mary E.:The OPD approach to acute psychosis: Its poetics and micropolitics.Family Process,42.3,403-18, 2003.
- Seikkula, J.,Arnkil ,T. E.:Dialogical Meetings in Social Networks, Karnac Books, London,2006. (高木俊介訳:オープンダイアログ.日本評論社,東京,2016.)
- Seikkula,J , Arnkil,T.E. : Open Dialogues and Anticipations – Respecting Otherness in the Present Moment.National Institute for Health and Welfare,Tampere,2014. (斎藤環監訳:開かれた対話と未来.医学書院,東京,2019)
- Tomi Bergström, Birgitta Alakare, Jukka Aaltonen, Pirjo Mäki, Päivi Köngäs-Saviaro, Jyri J. Taskila & Jaakko Seikkula: The long-term use of psychiatric services within the Open Dialogue treatment system after first-episode psychosis.Psychosis,9:310-321,2017
- 矢原隆行:リフレクティング:会話についての会話という方法.ナカニシヤ出版,東京,2016.

- 以下の雑誌でも特集が組まれています。
- ナラティブとケア 第8号,2017
- 精神療法 第43巻第3号,2017
- 精神科治療学 第33巻03号,2018
- 臨床心理学 第19巻第5号,2019
- 最新精神医学 第24巻第5号,2019

Open Dialogue Network Japan

Home

主催イベント

リンク

関連イベント - 情報

関連文獻 (準備中)

ミーティングリスト登録

ニュース

オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン



Open Dialogue Network
Japan

<http://open-dialogue-network-jp.jimdo.com/>

2015年3月発足。オープンダイアログに関する情報共有、意見交換、イベント、セミナーなどを行います。

共同代表：斎藤環(筑波大学) 高木俊介(たかぎクリニック)

石原孝二(東京大学)